

## 報告 2. 日本赤十字社の Bangladesh 南部避難民救援事業に参加

### 1. 避難民キャンプの様子



日中は汗が止まらないほどの暑さに加えて空気は乾燥しており、砂ぼこりがひどかったです。配給がある日は、袋を運ぶ多くの人を見かけました。



商店や学校が見られるなど、コミュニティーが出来上がっていました。一方で、新たに避難してきたと思われる人々の姿を見かけることもありました。

### 2. 活動の様子



大通りに面している仮設診療所（左）は週 6 日、各サイトへの巡回診療はそれぞれ週 1・2 日行っていました。1 日に約 100～150 名が受診に来ていました。活動期間中の診療患者総数は 5139 名でした。



多くの患者さんが待つ待合室でのトリアージ（左）や、皮膚の洗浄・処置（右）などを行いました。風邪などの呼吸器疾患が最も多かったです。また全身倦怠感、全身の痛みなど避難生活が長期化していることによる慢性的な訴えも多かったです。



（左）昨年末に流行したジフテリアは、第 5 班の活動期間においては減少傾向にありました。新規患者は別施設へ紹介となりますが、日赤は患者のご家族に対して発症予防のための内服指導と、症状の有無の確認のために自宅訪問を行っていました。

（右）今後、起こりうるコレラ流行に備え、医師や技術要員とともに、バングラデシュ赤新月社スタッフと現地ボランティアさんに向けて治療・看護・感染管理の講義を行いました。



これらの活動は日赤要員だけでなく、バングラデシュ赤新月社の医師・看護師、また現地で暮らすコミュニティーボランティアさんともに行われました。依然、終わりの見えない避難生活の中、多くの人々が支援を必要としています。日本赤十字社は今後も活動を継続していきます。